

下刈実施方法の違いが植栽木の初期成長 に及ぼす影響の検討

令和6年度

森林技術・支援センター

1 年度別計画

R6(2024)年度	R7(2025)年度	R8(2026)年度	R9(2027)年度	R10(2028)年度
・ 成長量等調査 ・ 下刈りの必要性確認	・ 成長量等調査 ・ 下刈りの必要性確認	・ 成長量等調査 ・ 下刈りの実施 (C区分判定区、1回刈り区) ・ 功程調査 (下刈り人工数) ・ 競合植生調査	・ 成長量等調査 ・ 下刈りの必要性確認 (C区分判定区)	・ 成長量等調査 ・ 下刈りの実施 (C区分判定区)
・ 定点観察	・ 定点観察	・ 定点観察	・ 定点観察	・ 競合植生調査 ・ 定点観察 ・ 完了報告

※令和6年度の結果を踏まえた年度別計画。

競合植生の状況から、令和7年度に下刈りは必要ないと判断したことから、令和8年度以降の下刈りを想定。

2 令和6年度の実施報告

(1) 下判りの必要性確認

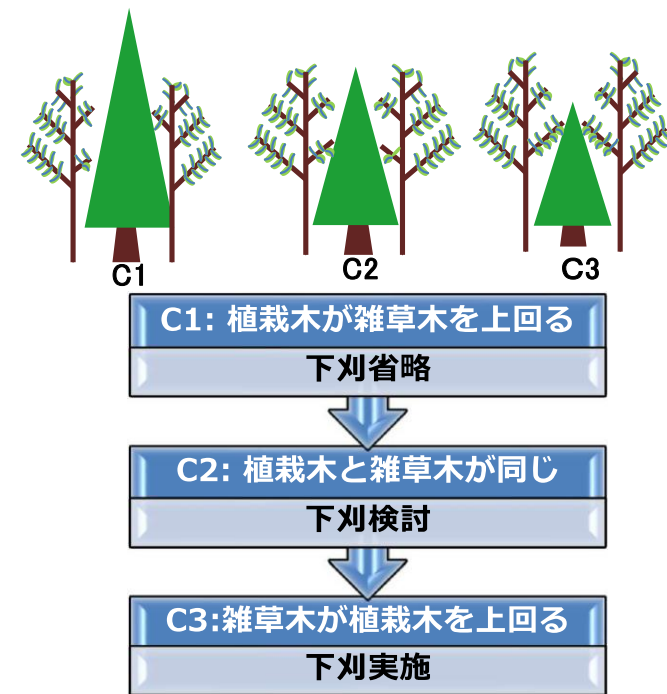
C区分判定を行ったところ、C1が多く下刈りが必要な状況ではなかった。



2,000本区 1回刈り(冬) C1



2,000本区 1回刈り(夏) C2





2,000本区 C区分判定区 C1



2,000本区 無下刈り区 C1



1,500本区 1回刈り(冬) C1



1,500本区 1回刈り(夏) C1

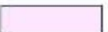
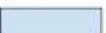


1,500本区 C区分判定区 C1

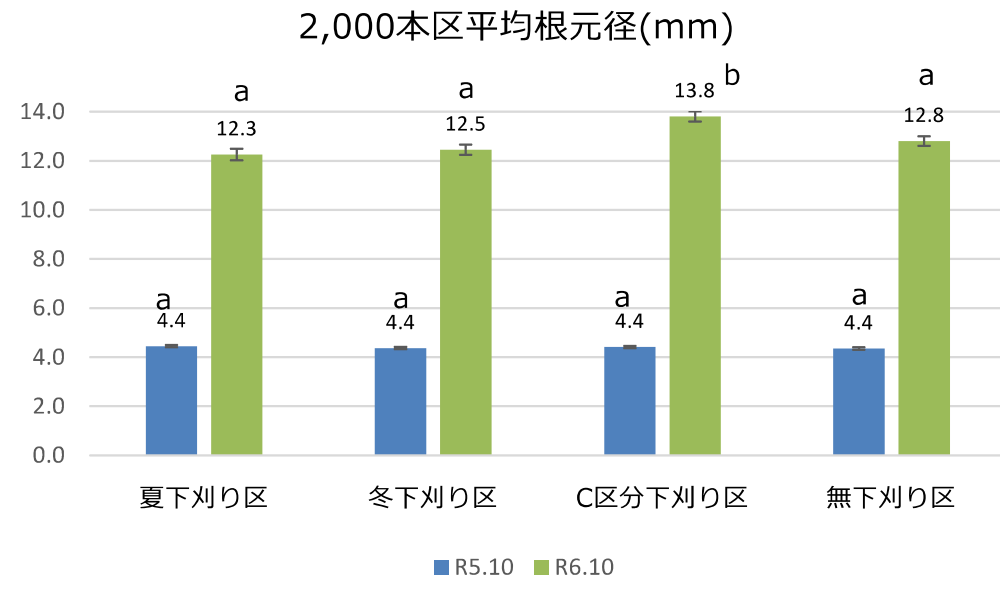
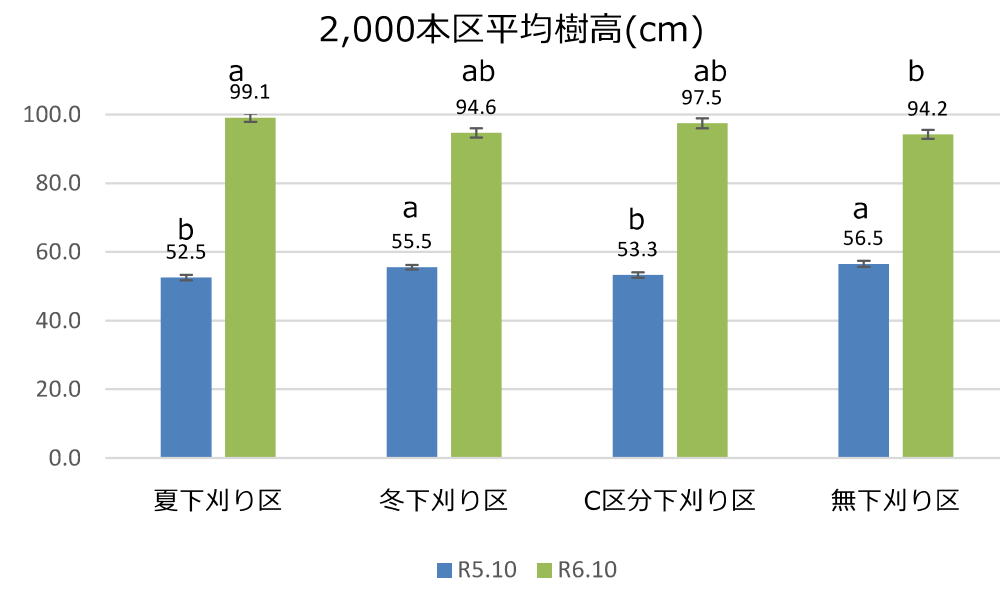
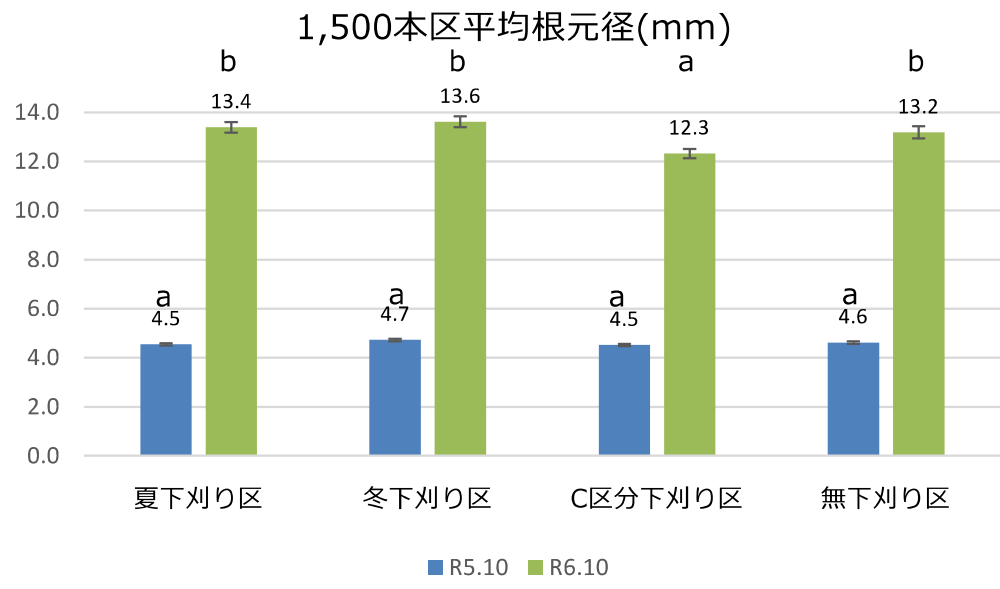
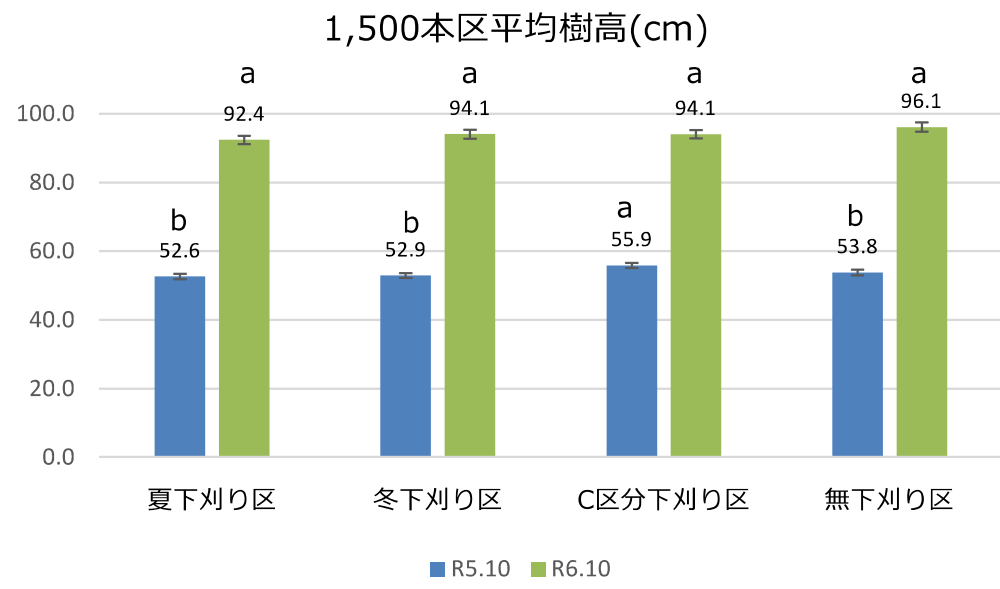


1,500本区 無下刈り区 C1



樹種：ヒノキ		無下刈区	C区分判定区	1回下刈区 (夏)	1回下刈区 (冬)
1,500本/ha	面積	0.07ha	0.06ha	0.06ha	0.06ha
	備考				
2,000本/ha	面積	0.04ha	0.04ha	0.05ha	0.05ha
	備考				
ウサギ防護柵			除地		

(2) 成長量等調査
樹高、根元径、生存率の調査を実施。



※各年での異なるアルファベットは有意差あり（5%水準）。エラーバーは標準誤差。

生存率

1,500本区

	本数		生存率 (%)
	R5.10	R6.10	
夏下刈り区	100	99	99
冬下刈り区	100	97	97
C区分下刈り区	100	97	97
無下刈り区	100	95	95

2,000本区

	本数		生存率 (%)
	R5.10	R6.10	
夏下刈り区	100	100	100
冬下刈り区	100	95	95
C区分下刈り区	100	99	99
無下刈り区	100	96	96

3 令和7年度の実施計画

- (1) 成長量等調査
- (2) 下刈りの必要性の確認
- (3) 定点観察